

# 救急の現況

令和4年



岐阜市消防本部

当消防本部は、平成 30 年 4 月 1 日から 4 市 1 町において消防広域化の運用を開始しました。

この現況の平成 30 年のデータについては、広域化前の各消防本部の数値を含みます。また、平成 29 年以前のデータについては、広域化前の岐阜市消防本部の数値となります。

～平成 29 年度までの管轄地域～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市

山県市消防本部 山県市

本巣消防事務組合消防本部 本巣市・北方町

～平成 30 年度から～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市・山県市・本巣市・北方町

～令和 3 年 10 月 1 日から～

救急安心センターぎふ#7119 の運用開始

## 救急の概況（令和4年）

### □救急出場件数 27,791 件、搬送人員 25,746 人

令和4年中の救急出場件数は27,791件、搬送人員は25,746人であった。

1日平均の出場件数は、約76件で19分に1件の割合で救急車が出場し、当消防本部管内の住民21人に1人が救急車を利用したことになる。

事故種別ごとにみた救急出場件数の状況は、急病17,878件、一般負傷4,636件、交通事故2,047件の順となっており、特に急病は全出場件数の64.3%を占めている。

### □心肺停止傷病者への救命処置について

救急隊員が救命処置した心肺停止傷病者613人のうち、脈拍と呼吸が回復し1ヵ月生存した傷病者は29人、そのうち社会復帰した傷病者は18人となっている。

主な救命処置別では、除細動を53人に実施し13人が社会復帰した。気管内チューブによる気道確保（ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管含む）は、15人に実施した。

また、薬剤投与（アドレナリン投与）は87人に実施した。

### □救急救命士の養成について

救急救命士は、新たに6人を養成し、採用時救急救命士資格保持者2人と合わせて延べ161人となった。

また、気管内チューブによる気道確保可能な救急救命士は3人養成し延べ98人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管可能な救急救命士は7人養成し延べ47人、薬剤投与が可能な救急救命士については10人養成し延べ147人となった。

血糖測定及び低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液（以下「新処置」という）が可能な救急救命士を6人養成し延べ109人となっている。

### □救急隊員の教育・訓練の実施について

救急救命士を含む救急隊員の全国的な交流と知識・技術の資質向上を図るために、第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会、第25回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会等の各種学会に参加した。

また、消防本部としては、令和4年度多数傷病者対応訓練を実施した。

さらに、メディカルコントロール体制の充実を図るため、4箇所の医療機関に救急隊を派遣しワークステーション方式による病院研修及び2箇所の医療機関では病院実習を実施している。

### □応急手当の普及啓発活動について

救急車が現場に到着するまでの間に、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られることから住民、各種事業所及び各種団体を対象に広く救命講習を開催している。

また、応急手当普及員講習Ⅰを開催し、応急手当普及員を22人認定し、延べ107人となり、応急手当普及員により8回の救命講習が実施された。

### □救急業務の推進について

救急活動の効率的な遂行を図るため、学識経験者、公募による住民代表者、岐阜市医師会及び医療機関の医師で構成する岐阜市救急業務対策協議会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催とした。

### □救急業務体験研修について

救急医療の重要性を認識し、救急業務の理解を深めた人材の育成を図ることを目的に、岐阜大学医学部、岐阜県総合医療センター及び岐阜市民病院と協定を締結し、医学生、研修医及び看護師を対象とした救急業務体験研修を実施している。

このように、医療関係者を研修生として受入れることで、消防機関と医療機関の連携が今まで以上に強化され、救急医療の一層の充実が図られている。

### □乗用車型ドクターカーの運用状況について

平成30年4月1日から、岐阜大学医学部附属病院の事業に協力して、消防本部管内で発生した重症事案に対し、消防本部に待機した医師・看護師が、消防職員の運転する乗用車型ドクターカーで、救急現場に出場している。

出場した医師・看護師が必要に応じ救急現場等から治療を開始し、医療機関へ搬送途上の救急車内で治療を継続することで、重症傷病者の救命率の向上及び後遺症の軽減が期待される。

ドクターカーの出場件数は598件、医師が救急車に同乗し医療機関へ搬送した人員は303人であった。

### □救急安心センターぎふ#7119の運用開始について

令和3年10月1日から救急安心センターぎふ#7119の運用を開始しました。この事業は、住民が急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのかなど迷った際の相談窓口として、看護師等の医療従事者から電話でアドバイスを受けることができます。

令和4年の相談実績は、救急相談が3,817件、病院案内が2,430件、その他が554件の計6,801件であった。

# 目 次

## 第1 救急業務実施体制の現況

救急業務実施体制	1
----------	---

## 第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況	2～4
2 救急隊別出場状況	5
3 事故種別出場件数及び搬送人員	6・7
4 年齢区分別事故種別搬送人員	8
5 月別1日平均及び曜日別出場件数	9
6 時刻別事故種別出場件数	10
7 現場到着所要時間別出場件数	11
8 傷病者の収容所要時間	12
9 診療科目別搬送人員	13
10 傷病程度別搬送人員	14・15
11 急病に係る搬送人員	16・17

## 第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置	18・19
2 ウツタイン様式調査	20

## 第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員	21
2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員	21
3 転送の状況	22

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況-----23

2 救命講習の受講人員の推移-----24

令和4年救急業務の年表-----25～28

# 第1 救急業務実施体制の現況

## 1 救急業務実施体制

岐阜市消防本部における救急業務は、令和4年12月31日現在、6消防署、15分署で、救急隊数21隊、救急隊員数210人で編成している。

また、高度救急救命体制の核となる救急救命士の資格を有する人数は161人(うち女性6人)、高規格救急車27台を運用し、計画的に救急業務の高度化を推進している。

第1表 救急業務実施体制

◎ 令和4年12月31日現在の救急業務実施体制	
○ 消防署数	21 署 (消防署6、分署15)
○ 管内面積	833.60 km <sup>2</sup>
○ 管内人口	535,700 人
○ 救急業務実施署	21 署 (消防署6、分署15)
○ 救急隊数	21 隊
○ 救急隊員数	210 人
○ 救急車保有台数	27 台 (うち6台は非常用救急車)

第2表 救急隊の配備と救急救命士等の養成状況

区分 年	救急隊数	救急隊員数	救急救命士数	救急救命士					救急科 修了者 (250時間)
				採用職員	気管挿管	ビデオ 喉頭鏡	薬剤投与	新処置	
平成12年	11	110	13						220
平成13年	11	110	15						241
平成14年	11	110	18						255
平成15年	11	110	21						269
平成16年	11	110	24		1				274
平成17年	12	120	29	1	6				292
平成18年	13	130	34	1	9		3		270
平成19年	14	140	40	4	14		9		305
平成20年	15	150	49	5	19		18		338
平成21年	15	150	57	9	24		24		382
平成22年	15	150	64	12	29		36		399
平成23年	15	150	67	12	34	0	46		393
平成24年	15	150	67	10	38	1	53		381
平成25年	15	150	71	11	43	3	61		398
平成26年	15	150	75	12	48	6	67		392
平成27年	15	150	81	14	49	7	70	9	392
平成28年	15	150	87	14	56	9	76	20	408
平成29年	15	150	92	14	60	15	84	32	398
平成30年	21	210	137	17	88	28	121	62	486
令和元年	21	210	144	21	91	31	128	78	503
令和2年	21	210	150	24	92	37	133	86	507
令和3年	21	210	156	27	95	40	138	98	501
令和4年	21	210	161	28	98	47	147	109	494

採用職員とは、岐阜市消防本部採用時に救急救命士の資格を有する職員

気管挿管は平成16年7月法制化

薬剤投与は平成18年4月法制化

ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管は平成23年8月付加

新処置(血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖投与、CPA前静脈路確保と輸液)は平成26年4月法制化

## 第2 救急業務の実施状況

### 1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況

令和4年中における救急業務の実施状況は、出場件数27,791件、搬送人員25,746人で、前年に比べ出場件数4,906件（21.4%）、搬送人員4,475人（21.0%）増加した。

1日あたり平均76件、19分に1件の割合で救急隊が出場したことになる。

住民の21人に1人が救急隊によって搬送されたことになる。

第3表 救急業務の実施状況

区分	年	令和4年 A	令和3年 B	対前年比	
				増減 A-B=C	増減率 C÷B
出場件数		27,791件	22,885件	4,906件	21.4%
医師搬送出場件数		1件	4件	-3件	-75.0%
資器材等搬送件数		0件	1件	-1件	-100.0%
傷病者搬送件数		25,507件	21,077件	4,430件	21.0%
傷病者不搬送件数		2,283件	1,803件	480件	26.6%
傷病者搬送人員		25,746人	21,271人	4,475人	21.0%
内訳	男性	13,109人	10,692人	2,417人	22.6%
	女性	12,637人	10,579人	2,058人	19.5%
1日平均出場件数		76件	63件	管内人口 令和4年12月31日現在 535,700人	
救急事故発生率		19分に1件	23分に1件		
救急自動車利用率		21人に1人	25人に1人		
人口1万人当たりの出場件数		519件	426件		

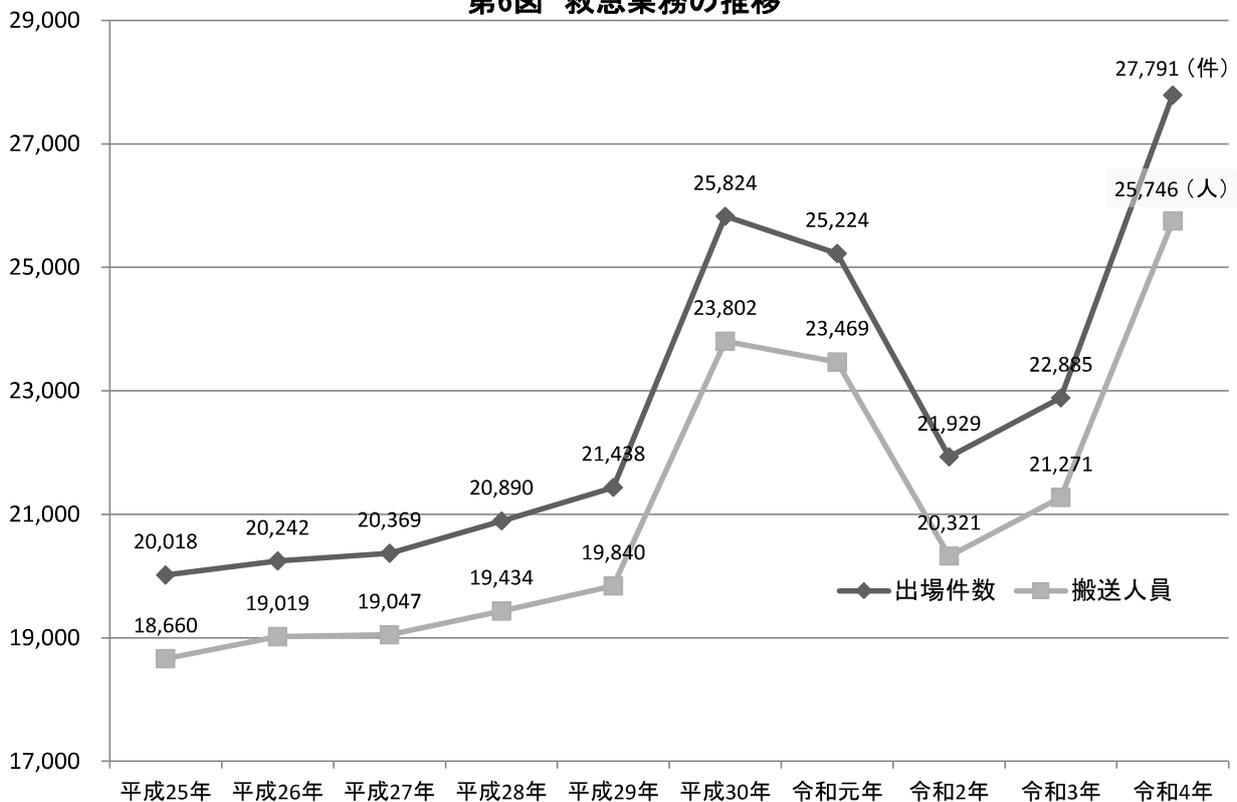
第4表 市・県・国における現況比較

	岐阜市消防本部	岐阜県 (令和3年)	全国 (令和3年)
救急車数（非常用含む）	27台	152台	6,549台
年間出場件数	27,791件	84,259件	6,193,581件
1日平均出場件数	76件	231件	16,969件
救急事故発生率	19分に1件	6.2分に1件	5.1秒に1件
人口比搬送率（救急車利用率）	21人に1人	25人に1人	23人に1人
現場到着平均所要時間	8.0分	8.9分	9.4分
病院収容平均所要時間	35.1分	36.4分	42.8分

第5表 救急業務の推移状況(過去10年)

年	救急出場件数			搬送人員数			人口1万人あたりの 出場数	消防本部 管内人口
	出場 件数	対前 年比	増減率	搬送 人員	対前 年比	増減率		
平成25年	20,018	98	0.5%	18,660	32	0.2%	426	469,416
平成26年	20,242	224	1.1%	19,019	359	1.9%	432	468,763
平成27年	20,369	127	0.6%	19,047	28	0.1%	436	467,690
平成28年	20,890	521	2.6%	19,434	387	2.0%	447	466,919
平成29年	21,438	548	2.6%	19,840	406	2.1%	460	465,966
平成30年	25,824	4,386	20.5%	23,802	3,962	20.0%	474	544,977
令和元年	25,224	-600	-2.3%	23,469	-333	-1.4%	464	543,607
令和2年	21,929	-3,295	-13.1%	20,321	-3,148	-13.4%	405	541,318
令和3年	22,885	956	4.4%	21,271	950	4.7%	426	537,626
令和4年	27,791	4,906	21.4%	25,746	4,475	21.0%	519	535,700

第6図 救急業務の推移



第7表 救急活動状況(事故別行政区域別)

事故種別	行政区域	合計			岐阜市			瑞穂市			山県市			本巣市			北方町			管轄外		
		4年	3年	増減	4年	3年	増減	4年	3年	増減	4年	3年	増減	4年	3年	増減	4年	3年	増減	4年	3年	増減
合計	出場件数	27,791	22,886	4,906	21,776	18,026	3,749	2,167	1,728	439	1,305	993	310	1,732	1,386	347	806	748	58	8	5	3
	搬送件数	25,507	21,077	4,430	19,963	16,687	3,276	1,975	1,597	378	1,214	920	294	1,600	1,269	331	748	700	48	7	4	3
	搬送人員	25,746	21,271	4,475	20,122	16,725	3,397	2,000	1,626	374	1,223	928	295	1,633	1,284	349	760	704	56	8	4	4
火災	出場件数	114	98	16	82	65	17	7	11	-4	14	5	9	8	16	-8	3	1	2	0	0	0
	搬送件数	22	26	-4	20	20	0	1	2	-1	1	1	0	0	3	-3	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	31	29	2	29	23	6	1	2	-1	1	1	0	0	3	-3	0	0	0	0	0	0
自然災害	出場件数	4	0	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送件数	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水難事故	出場件数	18	16	2	15	6	9	0	4	-1	0	2	-2	2	2	0	0	1	-1	1	1	0
	搬送件数	5	6	-1	5	1	4	0	2	-2	0	0	0	0	2	-2	0	1	-1	0	0	0
	搬送人員	5	6	-1	5	1	4	0	2	-2	0	0	0	0	2	-2	0	1	-1	0	0	0
交通事故	出場件数	2,047	1,875	172	1,559	1,406	153	184	189	-5	66	61	5	165	154	11	70	65	5	3	0	3
	搬送件数	1,856	1,741	115	1,420	1,310	110	160	178	-18	63	53	10	143	142	1	67	58	9	3	0	3
	搬送人員	2,030	1,903	127	1,532	1,424	108	178	202	-24	71	60	11	166	157	9	79	60	19	4	0	4
労働災害	出場件数	270	202	68	179	131	48	27	24	3	23	11	12	29	32	-3	11	4	7	1	0	1
	搬送件数	266	201	65	178	130	48	25	24	1	23	11	12	29	32	-3	10	4	6	1	0	1
	搬送人員	266	203	63	178	132	46	25	24	1	23	11	12	29	32	-3	10	4	6	1	0	1
運動競技	出場件数	185	156	29	142	128	14	14	8	6	11	3	8	11	14	-3	7	3	4	0	0	0
	搬送件数	185	156	29	142	128	14	14	8	6	11	3	8	11	14	-3	7	3	4	0	0	0
	搬送人員	188	158	30	145	130	15	14	8	6	11	3	8	11	14	-3	7	3	4	0	0	0
一般負傷	出場件数	4,636	3,839	797	3,612	3,002	610	335	279	56	250	191	59	302	261	41	137	106	31	0	0	0
	搬送件数	4,398	3,634	764	3,423	2,842	581	330	267	63	235	182	53	285	244	41	125	99	26	0	0	0
	搬送人員	4,413	3,643	770	3,432	2,849	583	330	269	61	236	182	54	290	244	46	125	99	26	0	0	0
加害	出場件数	75	64	11	59	52	7	8	6	2	0	2	-2	4	1	3	4	3	1	0	0	0
	搬送件数	58	52	6	47	44	3	5	3	2	0	2	-2	2	1	1	4	2	2	0	0	0
	搬送人員	58	52	6	47	43	4	5	4	1	0	2	-2	2	1	1	4	2	2	0	0	0
自損行為	出場件数	230	204	26	173	161	12	25	15	10	7	3	4	14	18	-4	11	7	4	0	0	0
	搬送件数	165	121	44	124	93	31	16	12	4	6	2	4	10	10	0	9	4	5	0	0	0
	搬送人員	165	121	44	124	93	31	16	12	4	6	2	4	10	10	0	9	4	5	0	0	0
急病	出場件数	17,878	14,410	3,468	13,922	11,363	2,559	1,454	1,106	348	849	624	225	1,139	839	300	511	476	35	3	2	1
	搬送件数	16,566	13,406	3,160	12,831	10,532	2,299	1,359	1,043	316	810	594	216	1,079	784	295	484	451	33	3	2	1
	搬送人員	16,602	13,423	3,179	12,856	10,544	2,312	1,365	1,045	320	810	595	215	1,084	784	300	484	453	31	3	2	1
転院搬送	出場件数	1,987	1,736	251	1,774	1,489	285	64	58	6	66	72	-6	41	37	4	42	78	-36	0	2	-2
	搬送件数	1,981	1,734	247	1,769	1,487	282	64	58	6	65	72	-7	41	37	4	42	78	-36	0	2	-2
	搬送人員	1,982	1,733	249	1,769	1,486	283	65	58	7	65	72	-7	41	37	4	42	78	-36	0	2	-2
その他	出場件数	347	285	62	254	223	31	49	28	21	17	19	-2	17	11	6	10	4	6	0	0	0
	搬送件数	3	0	3	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	4	0	4	3	0	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 救急隊別出場状況

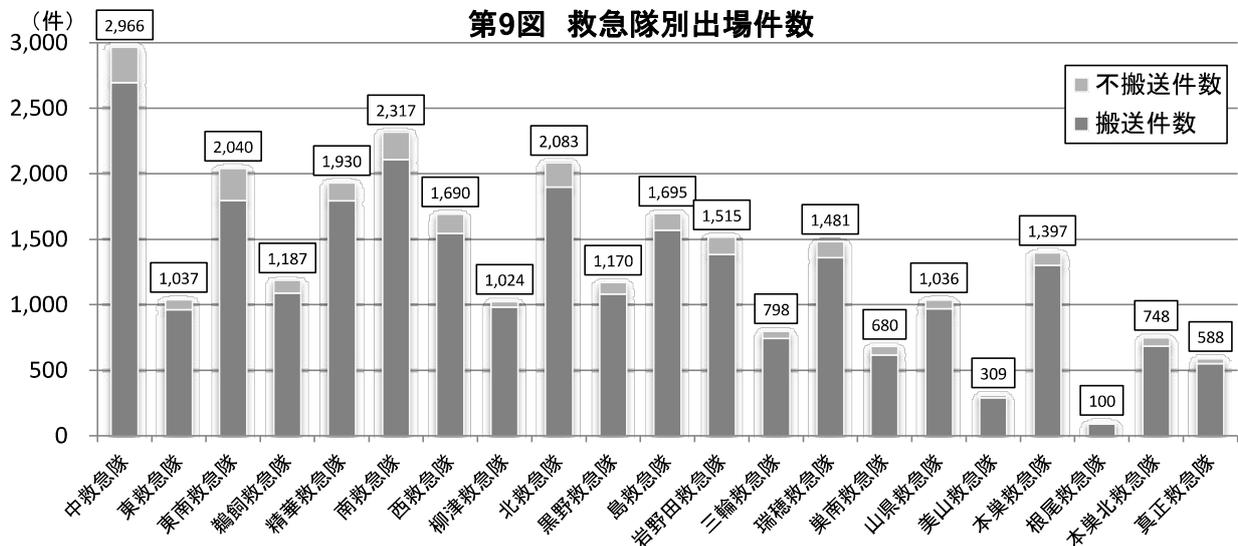
最も多く出場しているのは中救急隊の2,966件（構成比10.7%）で1日平均8.1件、最も少ないのは根尾救急隊の100件（構成比0.4%）で1日平均0.3件となっている。救急救命士搭乗件数は、27,790件で全体の99.9%である。

第8表 救急隊別出場状況

出場隊		区分	出場件数	構成比	前年 出場件数	増 減	1ヶ月 平均	1日平均	搬送人員	不搬送 件数
中消防署	中救急隊		2,966 (0)	10.7%	2,392	574	247.2	8.1	2,713	271
	東救急隊		1,037 (0)	3.7%	881	156	86.4	2.8	967	74
	東南救急隊		2,040 (0)	7.3%	1,713	327	170.0	5.6	1,811	245
	鵜飼救急隊		1,187 (0)	4.3%	930	257	98.9	3.3	1,094	97
	精華救急隊		1,930 (0)	6.9%	1,516	414	160.8	5.3	1,802	138
南消防署	南救急隊		2,317 (1)	8.3%	1,982	335	193.1	6.3	2,135	210
	西救急隊		1,690 (0)	6.1%	1,403	287	140.8	4.6	1,564	144
	柳津救急隊		1,024 (0)	3.7%	875	149	85.3	2.8	995	43
北消防署	北救急隊		2,083 (0)	7.5%	1,761	322	173.6	5.7	1,915	185
	黒野救急隊		1,170 (0)	4.2%	1,033	137	97.5	3.2	1,093	87
	島救急隊		1,695 (0)	6.1%	1,448	247	141.3	4.6	1,585	126
	岩野田救急隊		1,515 (0)	5.5%	1,172	343	126.3	4.2	1,394	129
	三輪救急隊		798 (0)	2.9%	624	174	66.5	2.2	749	55
瑞穂	瑞穂救急隊		1,481 (0)	5.3%	1,224	257	123.4	4.1	1,377	121
	巢南救急隊		680 (0)	2.4%	502	178	56.7	1.9	625	65
山県	山県救急隊		1,036 (0)	3.7%	850	186	86.3	2.8	973	65
	美山救急隊		309 (0)	1.1%	217	92	25.8	0.8	292	19
本巣署	本巣救急隊		1,397 (0)	5.0%	1,187	210	116.4	3.8	1,321	97
	根尾救急隊		100 (0)	0.4%	95	5	8.3	0.3	91	11
	本巣北救急隊		748 (0)	2.7%	596	152	62.3	2.0	692	65
	真正救急隊		588 (0)	2.1%	484	104	49.0	1.6	558	37
全体			27,791 (1)	100.0%	22,885	4906	2,315.9	76.1	25,746	2,284

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

出場件数の（ ）内は、救急救命士非搭乗件数



### 3 事故種別出場件数及び搬送人員

救急出場件数及び搬送人員を事故種別で見ると、第1位が急病、第2位が一般負傷、第3位が交通事故の順となっており、第3位までの出場件数は全体の88.4%と大半を占めている。

第10表 事故種別出場件数及び搬送人員

事故種別	年	令和4年		令和3年		対前年比	
		出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病		17,878	64.3%	14,410	63.0%	3,468	24.1%
		16,602	64.5%	13,423	63.1%	3,179	23.7%
交通事故		2,047	7.4%	1,875	8.2%	172	9.2%
		2,030	7.9%	1,903	8.9%	127	6.7%
一般負傷		4,636	16.7%	3,839	16.8%	797	20.8%
		4,413	17.1%	3,643	17.1%	770	21.1%
加害		75	0.3%	64	0.3%	11	17.2%
		58	0.2%	52	0.2%	6	11.5%
労働災害		270	1.0%	202	0.9%	68	33.7%
		266	1.0%	203	1.0%	63	31.0%
自損行為		230	0.8%	204	0.9%	26	12.7%
		165	0.6%	121	0.6%	44	36.4%
運動競技		185	0.7%	156	0.7%	29	18.6%
		188	0.7%	158	0.7%	30	19.0%
火災		114	0.4%	98	0.4%	16	16.3%
		31	0.1%	29	0.1%	2	6.9%
水難		18	0.1%	16	0.1%	2	12.5%
		5	0.0%	6	0.0%	-1	-16.7%
自然災害		4	0.0%	0	0.0%	4	0.0%
		2	0.0%	0	0.0%	2	0.0%
その他	転院搬送	1,987	7.1%	1,736	7.6%	251	14.5%
		1,982	7.7%	1,733	8.1%	249	14.4%
	その他	347	1.2%	285	1.2%	62	21.8%
		4	0.0%	0	0.0%	4	0.0%
計		27,791	100.0%	22,885	100.0%	4,906	21.4%
		25,746	100.0%	21,271	100.0%	4,475	21.0%

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第11表 事故種別搬送人員の推移

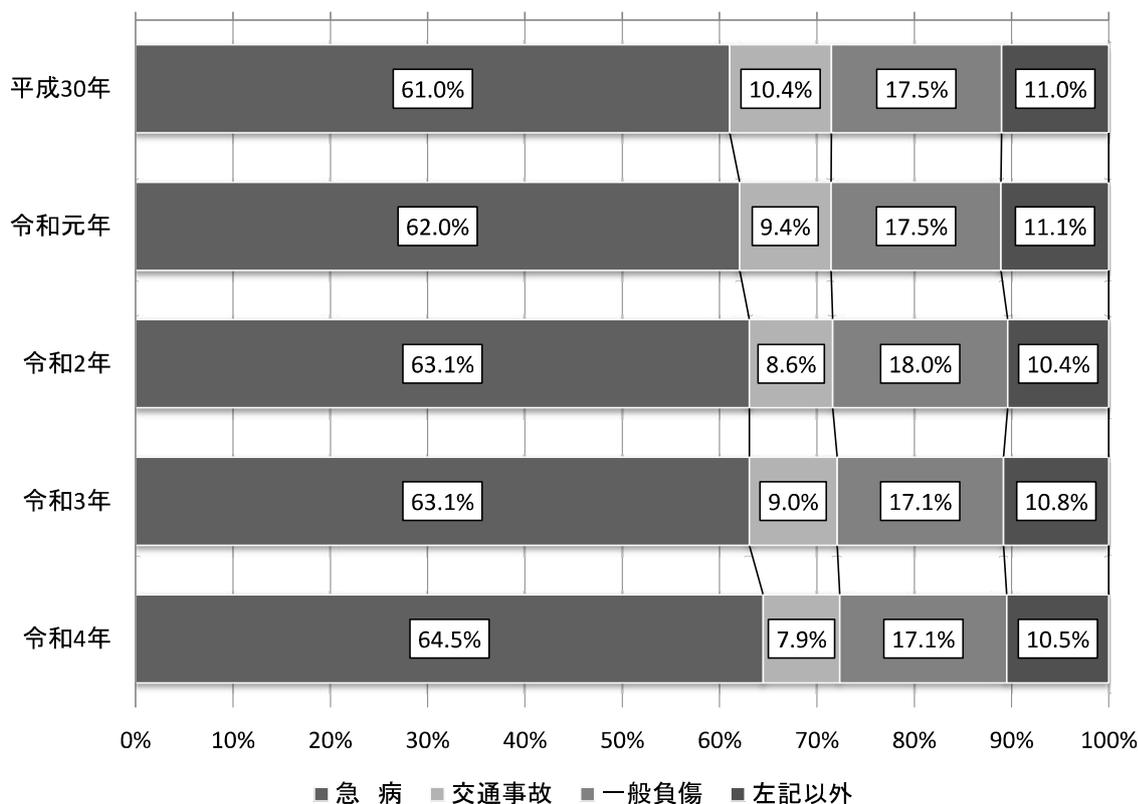
搬送人員を事故種別搬送人員構成比で見ると、急病の占める割合が増加し、交通事故は減少している。

年	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
平成30年		14,531 (61.0)	2,482 (10.4)	4,167 (17.5)	2,622 (11.0)	23,802 (100.0)
令和元年		14,561 (62.0)	2,209 (9.4)	4,099 (17.5)	2,600 (11.1)	23,469 (100.0)
令和2年		12,817 (63.1)	1,739 (8.6)	3,654 (18.0)	2,111 (10.4)	20,321 (100.0)
令和3年		13,423 (63.1)	1,903 (9.0)	3,643 (17.1)	2,302 (10.8)	21,271 (100.0)
令和4年		16,602 (64.5)	2,030 (7.9)	4,413 (17.1)	2,701 (10.5)	25,746 (100.0)

注) ( )内は、年別構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第12図 事故種別搬送人員構成比の推移



#### 4 年齢区分別事故種別搬送人員

全搬送人員に対する年齢区分別の搬送人員をみると、高齢者16,222人、成人7,473人の両者で全体の92.0%を占めている。年齢区分別事故種別構成比でみると、急病では高齢者64.6%、成人28.4%が高く、交通事故では成人が55.1%を占めている。

第13表 年齢区分別事故種別搬送人員

年齢区分 \ 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
新生児	7 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.1)	12 (0.0)
乳幼児	679 (4.1)	56 (2.8)	266 (6.0)	36 (1.3)	1,037 (4.0)
少年	472 (2.8)	213 (10.5)	159 (3.6)	158 (5.8)	1,002 (3.9)
成人	4,717 (28.4)	1,119 (55.1)	659 (14.9)	978 (36.2)	7,473 (29.0)
高齢者	10,727 (64.6)	642 (31.6)	3,327 (75.4)	1,526 (56.5)	16,222 (63.0)
65歳から74歳	2,387 (14.4)	270 (13.3)	612 (13.9)	381 (14.1)	3,650 (14.2)
75歳から84歳	4,181 (25.2)	270 (13.3)	1,284 (29.1)	614 (22.7)	6,349 (24.7)
85歳以上	4,159 (25.1)	102 (5.0)	1,431 (32.4)	531 (19.7)	6,223 (24.2)
計	16,602 (100.0)	2,030 (100.0)	4,413 (100.0)	2,701 (100.0)	25,746 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・年齢区分の定義 (以下同じ)

新生児：生後28日未満の者

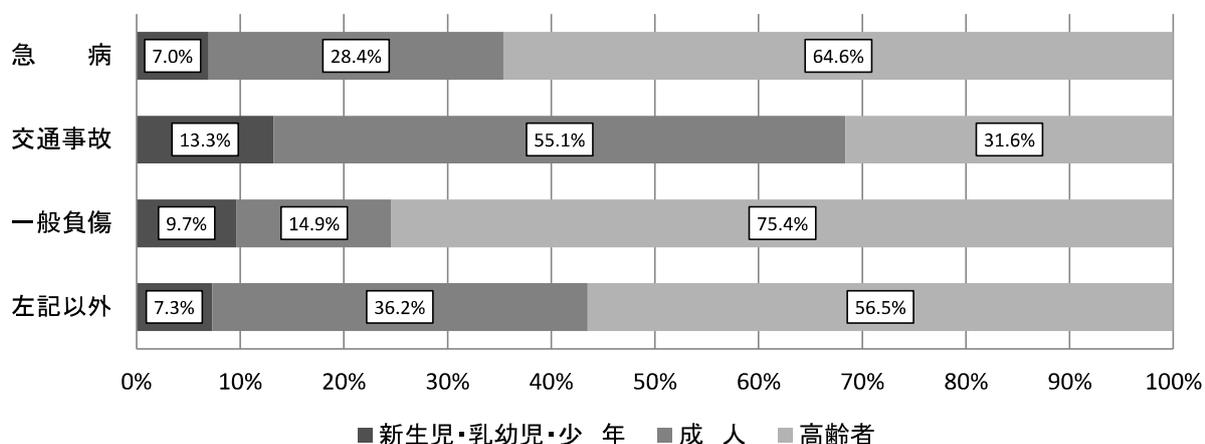
成人：満18歳以上満65歳未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

第14図 年齢区分別搬送人員割合



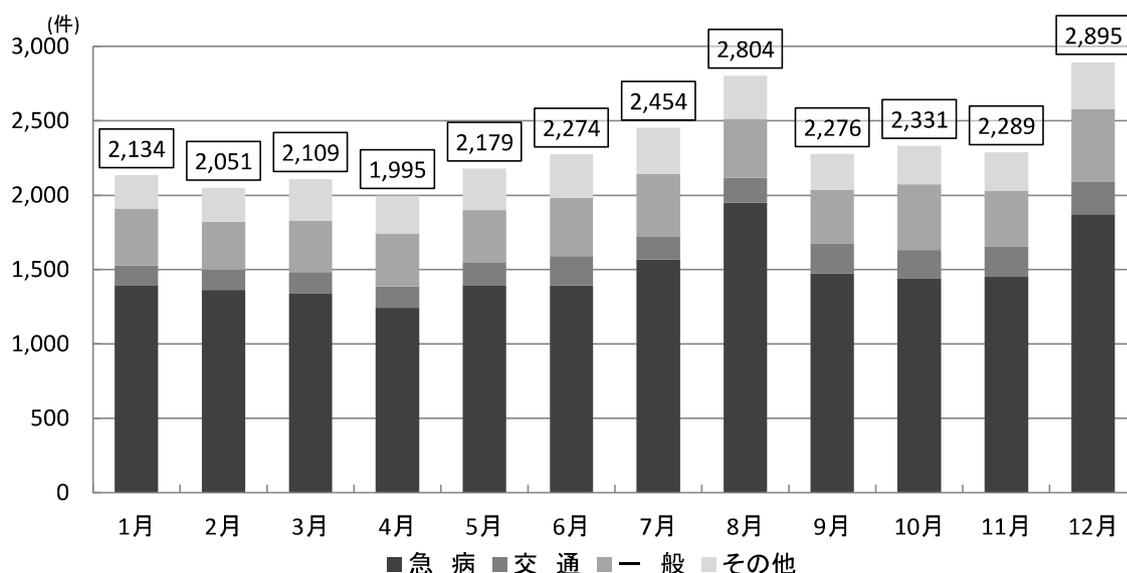
## 5 月別1日平均及び曜日別出場件数

月別1日平均救急出場件数は、12月の93件が最も多く、4月が67件と最も少ない月となっている。曜日別の救急出場件数をみると、1日平均救急出場件数は月曜日の80件が最も多くなっている。

### 第15表 月別1日平均出場件数

月 事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	1,395	1,364	1,340	1,242	1,392	1,394	1,567	1,949	1,472	1,439	1,452	1,872	17,878
交通	131	135	145	146	157	196	153	168	206	194	200	216	2,047
一般	385	323	344	354	350	392	423	396	357	441	378	493	4,636
上記以外	223	229	280	253	280	292	311	291	241	257	259	314	3,230
計	2,134	2,051	2,109	1,995	2,179	2,274	2,454	2,804	2,276	2,331	2,289	2,895	27,791
1日平均	69	73	68	67	70	76	79	90	76	75	76	93	76

### 第16図 月別出場件数



### 第17表 曜日別出場件数

種別 区分	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計	一日平均 出場件数	
曜日別	月	2,698	290	640	555	4,183	80
	火	2,481	297	633	506	3,917	75
	水	2,430	306	620	478	3,834	74
	木	2,571	294	613	483	3,961	76
	金	2,531	329	679	512	4,051	78
	土	2,567	303	728	395	3,993	75
	日	2,600	228	723	301	3,852	74
計	17,878	2,047	4,636	3,230	27,791	76	

## 6 時刻別事故種別出場件数

救急出場件数を入電時刻別で見ると、最も出場の多い入電時刻は10時台の1,839件であり、最も少ないのは4時台の452件となっている。

第18表 時刻別事故種別出場件数

時刻 \ 種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
0時	498	17	83	44	642
1時	432	16	63	35	546
2時	397	17	47	39	500
3時	367	12	53	38	470
4時	350	13	61	28	452
5時	419	24	93	28	564
6時	570	51	130	24	775
7時	795	81	195	43	1,114
8時	959	150	267	80	1,456
9時	1,146	141	310	240	1,837
10時	1,018	144	357	320	1,839
11時	918	116	327	327	1,688
12時	943	120	296	336	1,695
13時	883	108	282	275	1,548
14時	939	116	274	193	1,522
15時	848	131	283	197	1,459
16時	821	159	248	205	1,433
17時	969	166	236	200	1,571
18時	938	140	261	160	1,499
19時	891	119	211	137	1,358
20時	840	83	178	102	1,203
21時	747	60	149	66	1,022
22時	641	44	136	49	870
23時	549	19	96	64	728
計	17,878	2,047	4,636	3,230	27,791

注) 入電時刻とは通信回線等が消防機関に接続した時刻をいう。

## 7 現場到着所要時間別出場件数

119番入電から救急車が現場に到着するまでの所要時間別の出場状況は、10分未満が22,801件で全体の82.0%を占め、平均8.0分で救急車が現場に到着している。

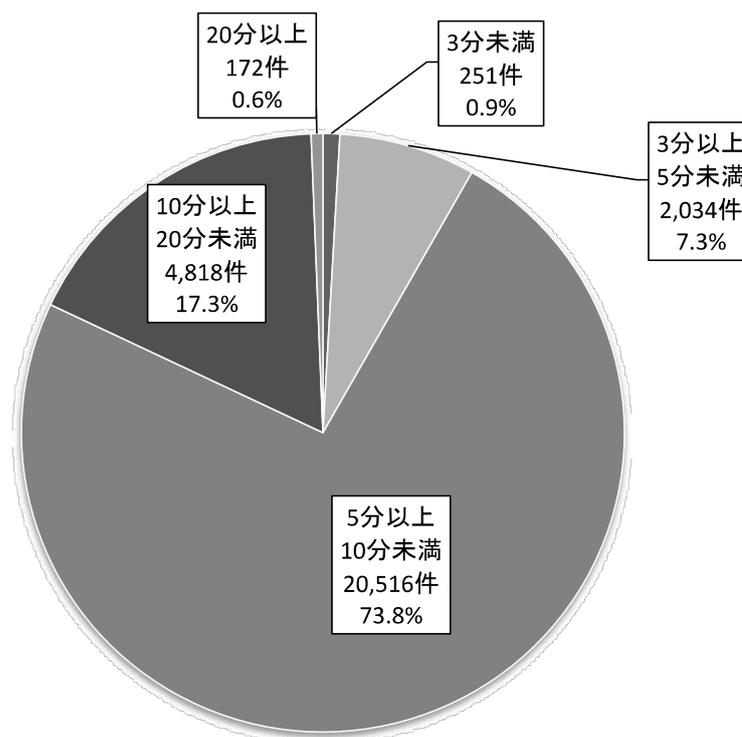
第19表 現場到着所要時間別出場件数

所要時間 事故種別	所要時間					計	平均 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	155	1,190	13,429	3,012	92	17,878	8.0
	(0.9)	(6.7)	(75.1)	(16.8)	(0.5)	(100.0)	
交通事故	15	122	1,402	498	10	2,047	8.6
	(0.7)	(6.0)	(68.5)	(24.3)	(0.5)	(100.0)	
一般負傷	39	323	3,511	738	25	4,636	7.9
	(0.8)	(7.0)	(75.7)	(15.9)	(0.5)	(100.0)	
上記以外	42	399	2,174	570	45	3,230	8.0
	(1.3)	(12.4)	(67.3)	(17.6)	(1.4)	(100.0)	
計	251	2,034	20,516	4,818	172	27,791	8.0
	(0.9)	(7.3)	(73.8)	(17.3)	(0.6)	(100.0)	

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第20図 現場到着所要時間と出場件数



## 8 傷病者の収容所要時間

119番入電から傷病者を収容先医療機関の医師に引き継ぐまでに要した時間は、最も多いのが30分以上60分未満の16,334人で全体の63.4%を占め、平均35.1分で医療機関に収容している。

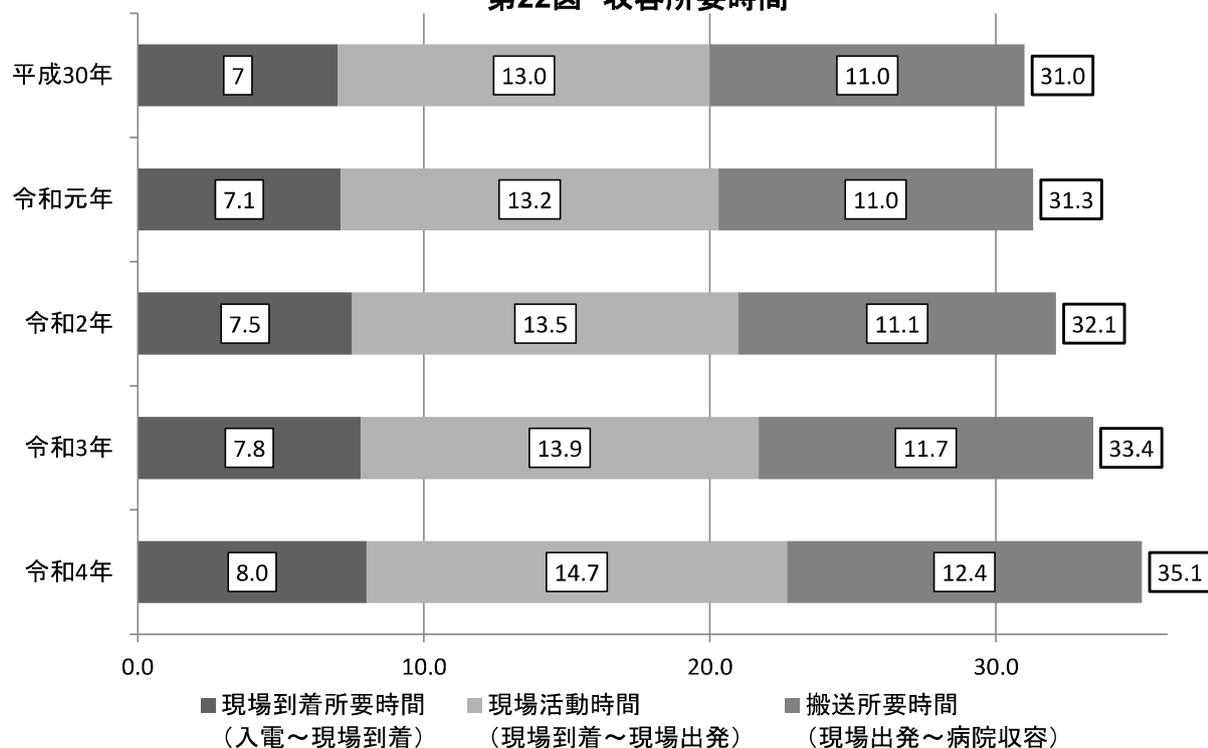
第21表 収容所要時間別事故種別搬送人員

所要時間 事故種別	所要時間						計	平均 (分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上		
急病	0	257	4,892	10,884	550	19	16,602	35.6
	(0.0)	(1.5)	(29.5)	(65.6)	(3.3)	(0.1)	(100.0)	
交通事故	1	40	606	1,322	59	2	2,030	35.1
	(0.0)	(2.0)	(29.9)	(65.1)	(2.9)	(0.1)	(100.0)	
一般負傷	0	95	1,341	2,830	141	6	4,413	35.2
	(0.0)	(2.2)	(30.4)	(64.1)	(3.2)	(0.1)	(100.0)	
上記以外	0	109	1,214	1,298	73	7	2,701	32.4
	(0.0)	(4.0)	(44.9)	(48.1)	(2.7)	(0.3)	(100.0)	
計	1	501	8,053	16,334	823	34	25,746	35.1
	(0.0)	(1.9)	(31.3)	(63.4)	(3.2)	(0.1)	(100.0)	

注) ( )内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第22図 収容所要時間



## 9 診療科目別搬送人員

過去5年間の診療科目別搬送人員の推移を表している。令和4年は内科、外科で全体の64.4%を占めている。

第23表 診療科目/搬送人員別の推移

診療科目 \ 年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
合 計	23,802 (100.0)	23,469 (100.0)	20,321 (100.0)	21,271 (100.0)	25,746 (100.0)
外 科	4,998 (21.0)	4,568 (19.5)	3,693 (18.2)	4,076 (19.2)	4,631 (18.0)
内 科	11,266 (47.3)	10,486 (44.7)	8,938 (44.0)	9,237 (43.4)	11,958 (46.4)
脳神経外科	1,405 (5.9)	1,553 (6.6)	1,539 (7.6)	1,482 (7.0)	1,604 (6.2)
小児科	1,014 (4.3)	1,103 (4.7)	614 (3.0)	687 (3.2)	1,079 (4.2)
産婦人科	287 (1.2)	285 (1.2)	192 (0.9)	258 (1.2)	233 (0.9)
耳鼻咽喉科	274 (1.2)	347 (1.5)	315 (1.6)	327 (1.5)	316 (1.2)
整形外科	2,287 (9.6)	2,487 (10.6)	2,445 (12.0)	2,329 (10.9)	2,680 (10.4)
泌尿器科	196 (0.8)	264 (1.1)	267 (1.3)	285 (1.3)	306 (1.2)
精神科	143 (0.6)	171 (0.7)	122 (0.6)	139 (0.7)	171 (0.7)
眼 科	18 (0.1)	19 (0.1)	22 (0.1)	29 (0.1)	31 (0.1)
循環器科	984 (4.1)	1,061 (4.5)	1,009 (5.0)	1,101 (5.2)	1,296 (5.0)
呼吸器科	313 (1.3)	403 (1.7)	403 (2.0)	519 (2.4)	601 (2.3)
上記以外	617 (2.6)	722 (3.1)	762 (3.7)	802 (3.8)	840 (3.3)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

## 10 傷病程度別搬送人員

傷病程度別・事故種別及び年齢区分別・傷病程度別搬送人員の状況を表している。

### 第24表 傷病程度別・事故種別搬送人員

種別 \ 程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	110 (0.7)	1,827 (11.0)	8,385 (50.5)	6,280 (37.8)	0 (0.0)	16,602 (100.0)
交通事故	1 (0.0)	76 (3.7)	488 (24.0)	1,465 (72.2)	0 (0.0)	2,030 (100.0)
一般負傷	15 (0.3)	327 (7.4)	1,832 (41.5)	2,239 (50.7)	0 (0.0)	4,413 (100.0)
上記以外	10 (0.4)	607 (22.5)	1,590 (58.9)	494 (18.3)	0 (0.0)	2,701 (100.0)
計	136 (0.5)	2,837 (11.0)	12,295 (47.8)	10,478 (40.7)	0 (0.0)	25,746 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

#### ・傷病程度の定義

死亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院) : 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

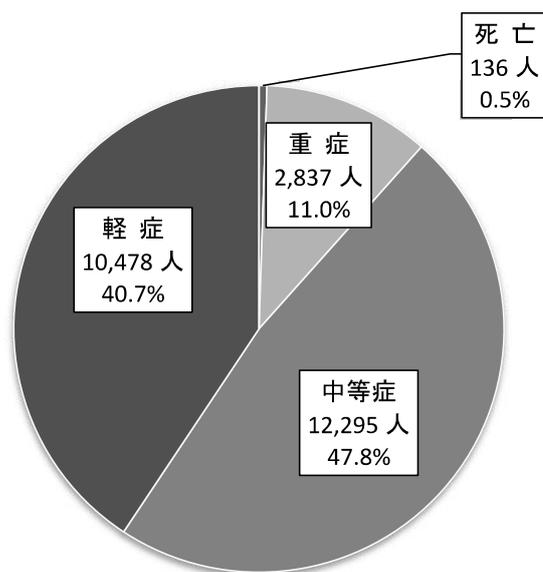
中等症(入院診療) : 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症(外来診療) : 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

### 第25図 傷病程度別搬送人員



第26表 年齢区分別傷病程度別搬送人員

区分 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (58.3)	5 (41.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
乳幼児	1 (0.1)	13 (1.3)	288 (27.8)	735 (70.9)	0 (0.0)	1,037 (100.0)
少 年	0 (0.0)	12 (1.2)	280 (27.9)	710 (70.9)	0 (0.0)	1,002 (100.0)
成 人	18 (0.2)	488 (6.5)	3,047 (40.8)	3,920 (52.5)	0 (0.0)	7,473 (100.0)
高齢者	117 (0.7)	2,324 (14.3)	8,673 (53.5)	5,108 (31.5)	0 (0.0)	16,222 (100.0)
65歳から74歳	22 (0.6)	457 (12.5)	1,790 (49.0)	1,381 (37.8)	0 (0.0)	3,650 (100.0)
75歳から84歳	43 (0.7)	859 (13.5)	3,301 (52.0)	2,146 (33.8)	0 (0.0)	6,349 (100.0)
85歳以上	52 (0.8)	1,008 (16.2)	3,582 (57.6)	1,581 (25.4)	0 (0.0)	6,223 (100.0)
計	136 (0.5)	2,837 (11.0)	12,295 (47.8)	10,478 (40.7)	0 (0.0)	25,746 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第27表 事故種別軽症者の推移

事故種別 \ 年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
軽症者数	10,306 (43.3)	9,722 (41.4)	7,747 (38.1)	8,213 (38.6)	10,478 (40.7)
急 病	5,756 (39.6)	5,500 (37.8)	4,433 (34.6)	4,710 (35.1)	6,280 (37.8)
交通事故	1,834 (73.9)	1,630 (73.8)	1,191 (68.5)	1,308 (68.7)	1,465 (72.2)
一般負傷	2,168 (52.0)	2,125 (51.8)	1,776 (48.6)	1,814 (49.8)	2,239 (50.7)
上記以外	548 (20.9)	467 (18.0)	347 (16.4)	381 (16.6)	494 (18.3)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

## 11 急病に係る搬送人員

急病の搬送人員は16,602人となっている。疾病分類では循環系の疾患が多く、脳疾患と心疾患等とで合わせて2,271人が搬送され、急病全体の搬送人員のうち13.7%を占めている。

特に高齢者は循環系、呼吸系の疾患が占める割合が高い。

傷病程度別で見ると軽症の割合は、全体で37.8%を占めている。(第30表参照)

年齢区分別にみると高齢者の割合が高く、全体の64.6%を占めている。

第28表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

分類項目		年齢区分					計
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
循環系	脳疾患	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.8)	175 (3.7)	835 (7.8)	1,014 (6.1)
	心疾患等	0 (0.0)	2 (0.3)	9 (1.9)	248 (5.3)	998 (9.3)	1,257 (7.6)
	消化系	0 (0.0)	35 (5.2)	39 (8.3)	396 (8.4)	754 (7.0)	1,224 (7.4)
	呼吸系	0 (0.0)	58 (8.5)	50 (10.6)	359 (7.6)	1,051 (9.8)	1,518 (9.1)
	精神系	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (3.0)	354 (7.5)	58 (0.5)	426 (2.6)
	感覚系	0 (0.0)	13 (1.9)	38 (8.1)	147 (3.1)	172 (1.6)	370 (2.2)
	泌尿系	0 (0.0)	2 (0.3)	5 (1.1)	233 (4.9)	243 (2.3)	483 (2.9)
	新生物	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (0.9)	160 (1.5)	203 (1.2)
	その他	2 (28.6)	44 (6.5)	60 (12.7)	552 (11.7)	1,184 (11.0)	1,842 (11.1)
	症状・徴候・診断名 不明確の状態	5 (71.4)	525 (77.3)	253 (53.6)	2,210 (46.9)	5,272 (49.1)	8,265 (49.8)
	計	7 (100.0)	679 (100.0)	472 (100.0)	4,717 (100.0)	10,727 (100.0)	16,602 (100.0)

注) 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO（世界保健機関）で定める国際疾病分類（ICD）により分類したものである。

注) 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。

注) 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。

注) 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

注) 「症状・徴候・診断名不明確の状態」とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の傷病名である。

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

注) 急病の搬送人員は、事故種別搬送人員から算出している。

第29表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 分類項目		死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
循環系	脳疾患	1 (0.9)	347 (19.0)	552 (6.6)	114 (1.8)	1,014 (6.1)
	心疾患等	8 (7.3)	281 (15.4)	656 (7.8)	312 (5.0)	1,257 (7.6)
消化系		0 (0.0)	79 (4.3)	685 (8.2)	460 (7.3)	1,224 (7.4)
呼吸系		1 (0.9)	162 (8.9)	923 (11.0)	432 (6.9)	1,518 (9.1)
精神系		0 (0.0)	15 (0.8)	158 (1.9)	253 (4.0)	426 (2.6)
感覚系		0 (0.0)	8 (0.4)	146 (1.7)	216 (3.4)	370 (2.2)
泌尿系		1 (0.9)	15 (0.8)	218 (2.6)	249 (4.0)	483 (2.9)
新生物		1 (0.9)	57 (3.1)	130 (1.6)	15 (0.2)	203 (1.2)
その他		0 (0.0)	123 (6.7)	948 (11.3)	771 (12.3)	1,842 (11.1)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		98 (89.1)	740 (40.5)	3,969 (47.3)	3,458 (55.1)	8,265 (49.8)
計		110 (100.0)	1,827 (100.0)	8,385 (100.0)	6,280 (100.0)	16,602 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第30表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
新生児	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.0)	3 (0.0)	7 (0.0)
乳幼児	0 (0.0)	8 (0.4)	205 (2.4)	466 (7.4)	679 (4.1)
少年	0 (0.0)	0 (0.0)	156 (1.9)	316 (5.0)	472 (2.8)
成人	13 (11.8)	261 (14.3)	2,019 (24.1)	2,424 (38.6)	4,717 (28.4)
高齢者	97 (88.2)	1,558 (85.3)	6,001 (71.6)	3,071 (48.9)	10,727 (64.6)
計	110 (100.0)	1,827 (100.0)	8,385 (100.0)	6,280 (100.0)	16,602 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第3 応急処置実施状況

#### 1 救急隊の行った応急処置

搬送人員25,746人のうち、応急処置を実施した傷病者は25,709人である。

特定行為等（器具による気道確保、気管内チューブによる気道確保、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、ブドウ糖投与）の件数は1,085件となっている。

第31表 救急隊員の行った応急処置

事故種別 応急処置対象人員	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
処置項目	16,586人	2,029人	4,411人	2,683人	25,709人
止血	79 (0.1)	45 (0.5)	232 (1.2)	32 (0.3)	388 (0.3)
固定	115 (0.1)	761 (8.0)	510 (2.5)	163 (1.3)	1,549 (1.3)
人工呼吸	34 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.0)	4 (0.0)	43 (0.0)
酸素吸入	3,781 (4.8)	134 (1.4)	304 (1.5)	694 (5.6)	4,913 (4.1)
保温	267 (0.3)	41 (0.4)	61 (0.3)	46 (0.4)	415 (0.3)
被覆	58 (0.1)	322 (3.4)	910 (4.5)	135 (1.1)	1,425 (1.2)
心肺蘇生	508 (0.6)	11 (0.1)	53 (0.3)	40 (0.3)	612 (0.5)
胸骨圧迫	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)
在宅療法	393 (0.5)	2 (0.0)	38 (0.2)	16 (0.1)	449 (0.4)
血圧測定	15,674 (19.8)	1,993 (20.9)	4,216 (21.0)	2,547 (20.7)	24,430 (20.2)
心音・呼吸音聴取	13,858 (17.5)	1,702 (17.9)	3,481 (17.4)	2,105 (17.1)	21,146 (17.5)
血中酸素飽和度測定	16,125 (20.4)	2,017 (21.2)	4,343 (21.7)	2,635 (21.4)	25,120 (20.8)
心電図測定	12,829 (16.2)	689 (7.2)	1,997 (10.0)	1,541 (12.5)	17,056 (14.1)
気道確保	725 (0.9)	17 (0.2)	79 (0.4)	51 (0.4)	872 (0.7)
用 手	327	9	40	25	401
経鼻エアウェイ	3	0	0	0	3
喉頭鏡・鉗子等	5	0	7	0	12
フリンゲアルマスク等	383	8	25	25	441
気管内チューブ	7	0	7	1	15
ビデオ喉頭鏡	5	0	2	1	8
除細動	50 (0.1)	0 (0.0)	2 (0.0)	1 (0.0)	53 (0.0)
静脈路確保	214 (0.3)	6 (0.0)	31 (0.2)	18 (0.1)	269 (0.2)
心肺機能停止前	71	4	10	6	91
心肺機能停止後	143	2	21	12	178
薬剤投与	68 (0.1)	2 (0.0)	12 (0.1)	5 (0.0)	87 (0.1)
血糖測定	185 (0.2)	3 (0.0)	6 (0.0)	3 (0.0)	197 (0.0)
ブドウ糖投与	23 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (0.0)
その他	14,118 (17.8)	1,776 (18.6)	3,758 (18.8)	2,282 (18.5)	21,934 (18.1)
計	79,104 (100.0)	9,523 (100.0)	20,036 (100.0)	12,319 (100.0)	120,982 (100.0)

注) ( )内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第32表 救急救命処置実施数の推移

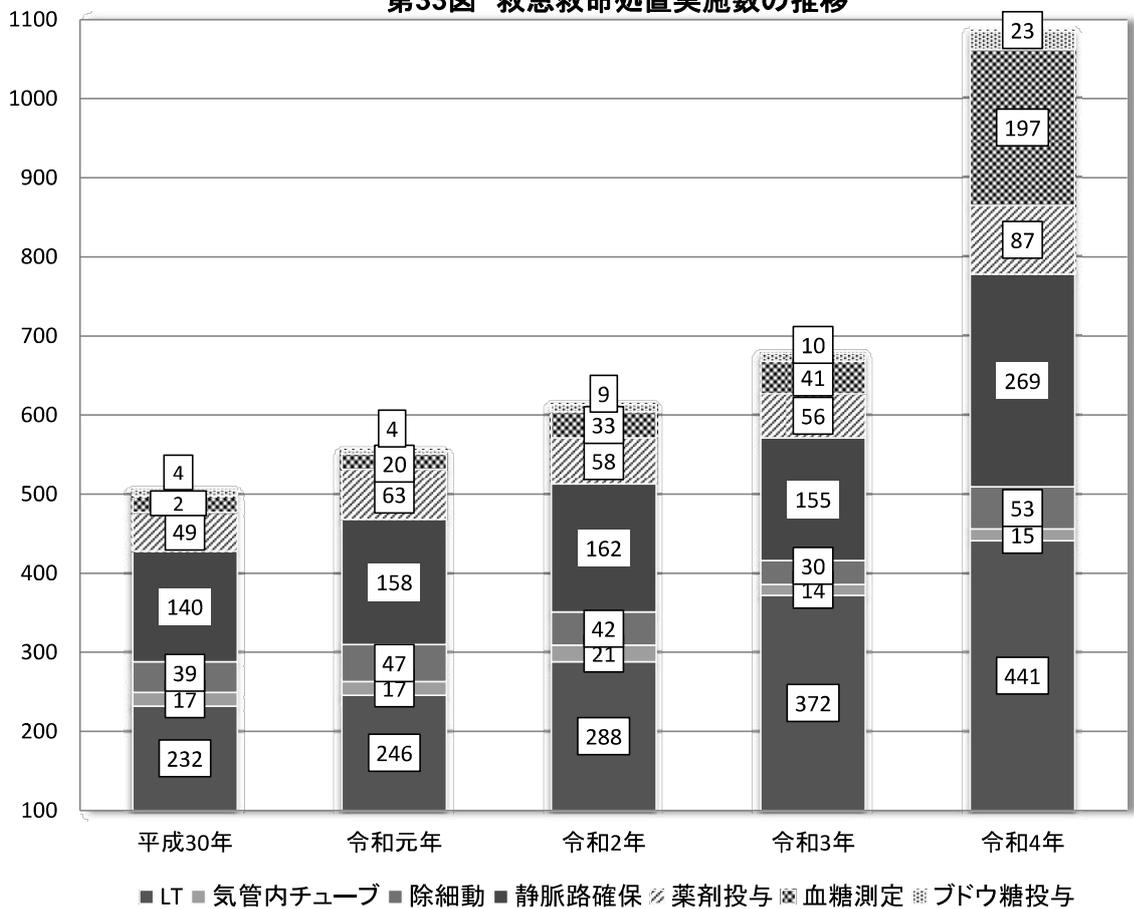
年	処置内容	LT	気管内チューブ	除細動	静脈路確保	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	合計
	処置実績								
	平成30年	232	17 (3)	39	140 (25)	49	21	7	505
	令和元年	246	17 (6)	47	158 (29)	63	20	4	555
	令和2年	288	21 (8)	42	162 (40)	58	33	9	613
	令和3年	372	14 (9)	30	155 (47)	56	41	10	678
	令和4年	441	15 (8)	53	269 (91)	87	197	23	1,085

注) 気管内チューブの ( ) 内はビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管を示す。

注) 処置内容のLTは、ラリングアルチューブを示す。

注) 静脈路確保の ( ) 内はCPA前静脈路確保を示す。

第33図 救急救命処置実施数の推移



- ※ 平成15年4月 除細動 (医師の具体的指示は不要)
- ※ 平成16年8月 除細動 (救急救命士以外の救急隊員も実施可能)
- ※ 平成16年7月 気管内チューブによる気道確保
- ※ 平成18年4月 薬剤投与 (アドレナリン投与)
- ※ 平成23年8月 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管
- ※ 平成26年4月 新処置 (血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、CPA前静脈路確保と輸液)

## 2 ウツタイン様式調査

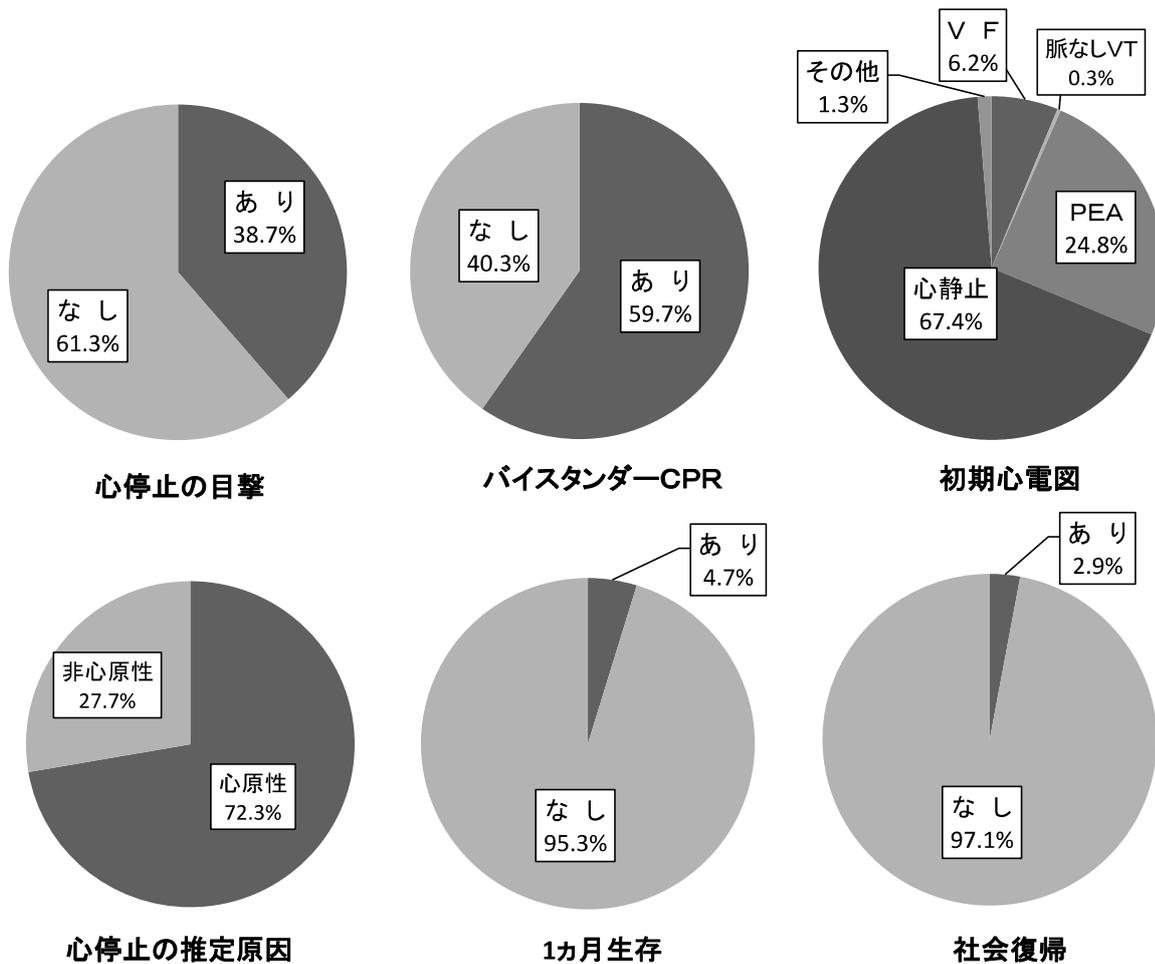
令和4年中において、救急隊が搬送したウツタイン様式調査の対象となる613人のうち、家族や救急隊員による心肺停止の目撃、CPRの有無、傷病者の1ヵ月以内の生存の割合について、救急救命士が対応した場合と一般隊員が対応した場合とに分け比較したものである。

第34表 ウツタイン様式調査

対象人数 613人

		救急救命士隊		その他の隊		合 計	
心停止の目撃	あり	237	38.7%	0	0.0%	237	38.7%
	なし	376	61.3%	0	0.0%	376	61.3%
バイスタンダー CPR	あり	366	59.7%	0	0.0%	366	59.7%
	なし	247	40.3%	0	0.0%	247	40.3%
初期心電図	V F	38	6.2%	0	0.0%	38	6.2%
	脈なしVT	2	0.3%	0	0.0%	2	0.3%
	PEA	152	24.8%	0	0.0%	152	24.8%
	心静止	413	67.4%	0	0.0%	413	67.4%
	その他	8	1.3%	0	0.0%	8	1.3%
心停止の 推定原因	心原性	443	72.3%	0	0.0%	443	72.3%
	非心原性	170	27.7%	0	0.0%	170	27.7%
1ヵ月生存	あり	29	4.7%	0	0.0%	29	4.7%
	なし	584	95.3%	0	0.0%	584	95.3%
社会復帰	あり	18	2.9%	0	0.0%	18	2.9%
	なし	595	97.1%	0	0.0%	595	97.1%

第35図 ウツタインの状況



## 第4 医療機関への搬送状況

### 1 医療機関別搬送人員

医療機関に搬送した25,746人のうち救急告示医療機関への搬送人員は25,365人（98.5%）で救急告示医療機関以外への搬送人員は、381人（1.5%）である。

第36表 医療機関別搬送人員

区分 告示別	医 療 機 関						構 成 比	そ の 他 の 場 所			合 計
	国 立	公 立	公 病 院	私 病 院	私 的 診 療 所	計		接 骨 院 等	そ の 他 の 場 所	計	
救急告示	1,661 (8)	9,869 (871)	4,155 (309)	9,666 (1,616)	14 (0)	25,365 (2,804)	98.5%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25,365 (2,804)
非告示	0 (0)	0 (0)	0 (0)	221 (37)	160 (2)	381 (39)	1.5%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	381 (39)
計	1,661 (8)	9,869 (871)	4,155 (309)	9,887 (1,653)	174 (2)	25,746 (2,843)	100.0%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25,746 (2,843)

注) ( ) 内は管外の医療機関へ搬送された人員である。

### 2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

管内の医療機関に89.0%搬送されている。

第37表 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

区分 年	搬送人員	搬 送 先 医 療 機 関						管 外 搬送率
		管 内			管 外			
					県 内	県 外		
平成30年	23,802	21,234	89.2%	2,554	10.7%	14	0.1%	10.8%
令和元年	23,469	20,911	89.1%	2,533	10.8%	25	0.1%	10.9%
令和2年	20,321	18,186	89.5%	2,119	10.4%	16	0.1%	10.5%
令和3年	21,271	18,935	89.0%	2,318	10.9%	18	0.1%	11.0%
令和4年	25,746	22,903	89.0%	2,821	11.0%	22	0.1%	11.0%

### 3 転送の状況

「転送」とは、何らかの理由により、初回の搬送先医療機関で収容できなかったため、さらに当該医療機関等以外の医療機関へ搬送した場合をいう。

令和4年中の搬送人員（25,746人）について、転送回数別搬送人員の状況を表し、転送なしに収容された傷病者は、25,699人（99.8%）であり、残りの47人（0.2%）は表39の理由により転送されている。

**第38表 転送回数別搬送人員(事故種別)**

事故種別	転送の有無 及び回数	転送なし (A)	転送回数					小計 (B)	計 (C) (A) + (B)	転送率 (B)/(C) ×100
			1回	2回	3回	4回	5回 以上			
急病		16,569	33	0	0	0	0	33	16,602	0.2%
交通事故		2,027	3	0	0	0	0	3	2,030	0.1%
一般負傷		4,406	7	0	0	0	0	7	4,413	0.2%
上記以外		2,697	3	1	0	0	0	4	2,701	0.1%
計		25,699	46	1	0	0	0	47	25,746	0.2%

**第39表 事故種別による転送理由**

転送となった48件について、初回の医療機関に収容できなかった理由は、処置困難のケースが多く64.6%を占めている。

種別 理由	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
ベッド満床	4 (12.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (8.3)
専門外	4 (12.1)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (20.0)	7 (14.6)
医師不在	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
手術中	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.1)
処置困難	20 (60.6)	3 (100.0)	5 (71.4)	3 (60.0)	31 (64.6)
理由不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	4 (12.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (10.4)
計	33 (100.0)	3 (100.0)	7 (100.0)	5 (100.0)	48 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

## 第5 応急手当の普及啓発活動の状況

### 1 救命講習の実施状況

応急手当普及啓発活動については、救命講習等を623回開催し12,985人が受講した。

普及啓発用資器材の保有状況については、蘇生訓練用人形が成人用84体、小児用42体、乳児用42体、AEDトレーナー84器、救命処置訓練人形6体、外傷用模型セットを1セット保有している。

岐阜市消防本部では、住民を対象に日曜救命講習及び夜間救命講習を開催している。

また、公立中学校と希望する私立中学校の生徒を対象に、「命の教育」として短時間救命講習を実施している。

さらに、平成27年から実施している応急手当普及員講習Ⅰにより、107人の応急手当普及員を認定している。令和4年は、この応急手当普及員により8回の救命講習が実施され、176人が受講した。

第40表 講習別救命講習実施人員

種別 区分	上級 救命講習	普通 救命講習 Ⅰ	普通 救命講習 Ⅱ	普通 救命講習 Ⅲ	ステップアップ 講習	救命入門 コース	救命講習 以外講習	合 計
実施回数	7	140	2	14	129	169	162	623
受講者数	113	976	33	119	1,205	2,509	8,030	12,985

第41表 受講対象者別救命講習受講人数

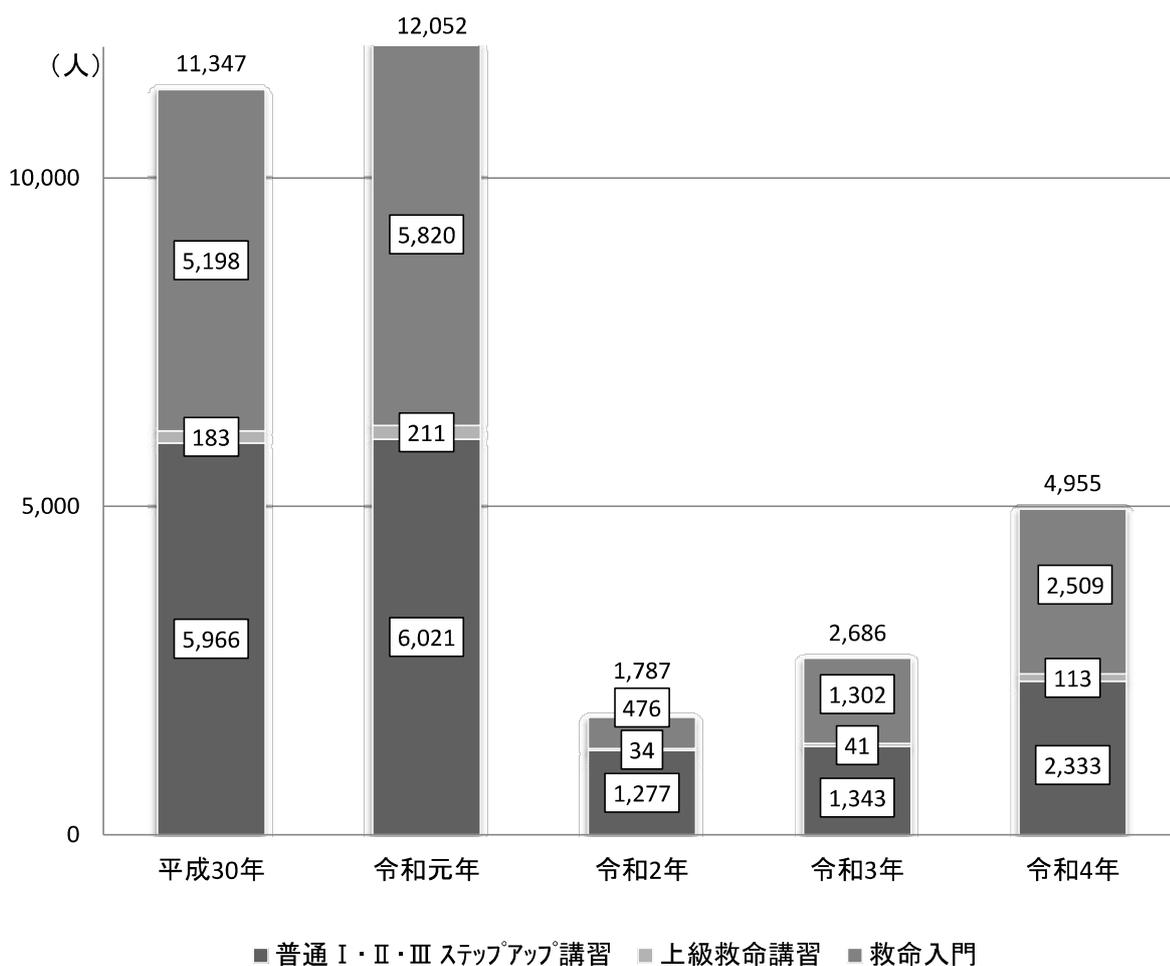
年	団体	事業所	市町職員	自治会等	女性防火	消防団	学校等	日曜救命	夜間救命	その他	合 計
平成30年		4,196	329	1,762	613	565	16,198	399	37	3,011	27,110
令和元年		4,393	794	2,434	655	656	14,014	470	70	3,017	26,503
令和2年		529	441	72	50	65	1,970	162	16	279	3,584
令和3年		663	252	204	158	14	4,385	167	12	296	6,151
令和4年		1,775	237	479	367	164	8,608	287	37	1,031	12,985

## 2 救命講習の受講人員の推移

第42表 救命講習の受講人員の推移

種別 年	普通 I・II・III ステップアップ講習 A	上級救命講習 B	小 計 C=A+B	救命入門 コース D	合 計 C+D
平成30年	5,966	183	6,149	5,198	11,347
令和元年	6,021	211	6,232	5,820	12,052
令和2年	1,277	34	1,311	476	1,787
令和3年	1,343	41	1,384	1,302	2,686
令和4年	2,333	113	2,446	2,509	4,955

第43図 救命講習の受講人数



## 令和4年救急業務の年表

記 事	
令和4年 1月14日	第10回岐阜県救急隊員教育シンポジウム(オンライン)
令和4年 1月20日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 塩中崇志 救急救命士による薬剤投与修了実習 森下拓海、小酒井大貴
令和4年 1月27日 ～ 1月28日	第30回全国救急隊員シンポジウム (オンライン) 開催場所：群馬県高崎市
令和4年 1月31日	令和3年度第3回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG 臼井康介
令和4年 2月17日	第18回岐阜市救急業務対策協議会(書面) 救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 榊泰浩 救急救命士による薬剤投与修了実習 六坊章宏
令和4年 2月19日	市民公開講座 (岐阜市医師会主催・岐阜市後援 オンライン) 開催場所：グランヴェール岐山
令和4年 2月25日	岐阜県MC協議会「プロトコール検討部会」 救急指導係長 青谷洋人 岐阜県MC協議会「救急隊員教育部会」 救急課長 長崎信隆 救急活動検証会 (救急課主催) 開催場所：岐阜大学医学部大会議室
令和4年 2月28日	令和3年度第3回岐阜地域MC協議会 (オンライン) 救急課長 長崎信隆、岐阜県MC救命士 松葉亮
令和4年 3月 4日	令和3年度第2回外傷調査に係るワーキンググループ 救急指導係長 青谷洋人
令和4年 3月13日	第45回救急救命士国家試験 川端大輝、加藤智哉、岩田貴斗、田中佑典、佐藤悠太、片桐将
令和4年 3月16日 ～ 3月25日	処置拡大追加講習 研修場所：救急救命九州研修所 白木正成
令和4年 3月23日	令和3年度第3回岐阜県MC協議会 (オンライン) 救急課長 長崎信隆
令和4年 4月 5日 ～10月 3日	第62期救急救命東京研修所派遣 北御門翔、長瀬一樹、和田恭兵
令和4年 4月13日 ～ 4月14日	救急係長会議 (会場：本巣消防署) 〃
令和4年 4月18日 ～ 4月22日	令和4年度感染防止対策強化研修 研修場所：救急救命九州研修所 青谷洋人
令和4年 4月18日 ～ 4月21日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜市民病院：小森崇司 朝日大学病院：野久雅俊

	記 事
令和4年 4月24日	第11回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン
令和4年 5月 9日 ～ 5月26日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：横澤佑太、南林長太、横田真澄 岐阜市民病院：木野村尚也、臼田聖史、佐古達也 朝日大学病院：道脇翔平、大野謙次郎 岐阜北厚生病院：小林寛法、池戸亮治
令和4年 5月20日	令和4年度第1回岐阜県消防長会救急課長会議 開催場所：岐南町防災コミュニティーセンター
令和4年 5月25日 ～ 5月27日	第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会 開催場所：大阪国際会議場
令和4年 5月30日 ～ 7月 1日	救急救命士の就業前病院実習 岐阜県総合医療センター：川端大輝、岩田貴斗 岐阜市民病院：田中佑典、佐藤悠太 岐阜北厚生病院：片桐将、加藤智哉
令和4年 6月21日	令和4年度第1回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG 臼井康介 令和4年度第1回外傷調査に係るワーキンググループ 救急指導係長 青谷洋人
令和4年 6月22日	令和4年度第1回岐阜地域MC協議会 救急課長 長崎信隆、岐阜県MC救命士 松葉亮
令和4年 7月 2日	第19回岐阜県救急医療研究会総会・学術集会
令和4年 7月 4日	令和4年度第1回岐阜県MC協議会（オンライン） 消防長会長 早川誠、救急課長 長崎信隆
令和4年 7月 4日 ～ 8月10日	救急救命士の就業前病院実習 朝日大学病院：岡部真歩 岐阜赤十字病院：熊崎丈一郎、馬場良樹
令和4年 7月 4日 ～ 8月17日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜市民病院：間狭大将 朝日大学病院：谷山貴由
令和4年 7月 9日 7月24日 8月 3日	応急手当普及員再講習（計3日間） 開催場所：消防本部6階大会議室
令和4年 7月12日 7月13日	第17期処置拡大二行為養成講習 横澤佑太、道脇翔平、木野村尚也、小林寛法、臼田聖史
令和4年 7月22日	救急活動スキルアップ研修会（救急課主催）
令和4年 7月25日 ～ 7月27日	患者等搬送乗務員適任者講習（消防本部6階 大会議室） 〃
令和4年 7月28日	患者等搬送乗務員定期講習（消防本部6階 大会議室）
令和4年 8月 1日 ～ 8月 5日	MC救命士養成講習 松久剛久、足立広治、柘植一志、野田智昭、仲田総志、早川裕二
令和4年 8月12日	採用直後に救急救命士資格を取得した職員への救急課教育 岡部真歩、熊崎丈一郎、馬場良樹

	記 事
令和4年 8月22日 ～ 8月26日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜赤十字病院：柘植一志
令和4年 8月23日 ～令和5年3月15日	救急救命名古屋研修所派遣 小石崇弘
令和4年 8月29日 ～ 8月31日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 朝日大学病院：早川裕二
令和4年 8月30日	令和4年度第1回救急隊員教育部会 救急課長 長崎信隆 令和4年度第1回プロトコール検討部会 救急指導係長 青谷洋人
令和4年 9月12日 ～令和5年3月13日	第63期救急救命東京研修所派遣 川添誠也、滝川一興
令和4年 9月 3日	応急手当普及員講習
令和4年 9月10日	開催場所：消防本部6階大会議室及び南消防署
令和4年 9月17日	
令和4年 9月 5日 ～ 9月 7日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜市民病院：仲田総志
令和4年 9月 6日	令和4年度第2回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG 臼井康介
令和4年 9月 7日	令和4年度第1回岐阜県MC協議会岐阜支部 救急課長 長崎信隆、岐阜県MC救命士 松葉亮
令和4年 9月15日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 小森崇司 救急救命士による薬剤投与修了実習 片桐将
令和4年 9月26日 ～ 9月28日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜赤十字病院：野田智昭
令和4年 9月27日	令和4年度第2回岐阜県MC協議会（オンライン） 救急課長 長崎信隆
令和4年10月 6日	岐阜ブロック救急担当課長会議 開催場所：各務原市役所
令和4年10月13日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 柘植一志、野久雅俊 救急救命士による薬剤投与修了実習 岩田貴斗、加藤智哉
令和4年10月28日	岐阜市救急業務対策協議会公募委員選考会 開催場所：消防本部4階 北側研修室
令和4年11月 5日	第25回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会 開催場所：一宮スポーツ文化センター
令和4年11月 7日 ～12月 9日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜市民病院：池戸智彦

	記 事
令和4年11月 9日	令和4年度第2回岐阜県消防長会救急課長会議 開催場所：北方町ホリモク生涯学習センターきらり
令和4年11月16日	令和4年度岐阜市多数傷病者対応訓練 開催場所：岐阜市中央青少年会館
令和4年11月17日	岐阜赤十字病院感染症患者受入れ対応訓練（岐阜赤十字病院主催） 開催場所：岐阜赤十字病院 参加職員：林光仁、勝村雄介、小島成樹
令和4年11月17日	救急救命士による薬剤投与修了実習 佐藤悠太、田中佑典
令和4年12月15日	救急救命士による薬剤投与修了実習 川端大輝、藤澤柊斗
令和4年12月17日	令和4年度MCに係る研修会（オンライン）
令和4年12月20日 12月21日	第18回処置拡大二行為養成講習 河田憲太郎、横田真澄、南林長太、大野謙次郎、佐古達也